

‘11年～ 審判講習会 資料—2

(1) 審判員の裁定とアピール（裁定訂正の要請）、抗議権について

- ① 本来（公認野球規則9.02-b）、審判員の裁定が規則の適用を誤って下した疑いがある時は、監督だけがその判定を規則に基づく正しい判定に訂正するように要請することが出来るのであるが、当リーグの場合は実態に合わせて、監督・主将・当該プレーヤーのうち的一名のみとしている（DL大会試合規定20）。よって、複数の者が異議を唱えることは許されない。
- ② 上記は主にルール適用・処理に関わることであるが、単純な「ストライク・ボール・アウト・セーフ・ハーフスイング・フェア・ファウル等の判定に対する抗議は厳禁する」（DL大会試合規定21）。但し、主審・塁審の判定が違う場合はこの限りでない。

(2) 安全進塁権（公認規則7.04、7.05）に関するDL試合規定

プレイング・アウトライン際における審判裁定についての取り決め

DL使用グラウンドの外郭ラインはバックネットとベンチを結ぶ延長線上と外野フェンス（ライン）である。

- ① 野手がプレイングゾーン内で飛球を捕えた後（＝捕球と認められ、アウトの宣告がある）に、その勢いで身体（足）がアウトラインを越えた場合でも、ボールインプレイとする。
→ **試合続行可能**
- ② 野手がプレイングゾーン内で飛球を捕えた後（＝捕球と認められ、アウトの宣告がある）に、その勢いで身体がアウトラインを越えて転倒した場合（スライディングキャッチは除く）は、ボールデッドとなり、無死または一死の走者には1個の進塁を与える。
→ **場外エリアに倒れこんだ場合は突発事故扱いでタイムを宣告**
- ③ 野手がアウトライン際で飛球を捕えつつ（＝まだ捕球と認められない）勢いで身体も球もラインを越えた場合は、場外エリアでの捕球となり、よって単なるファールボールにすぎない（ボールデッド）。
- ④ 野手がアウトラインを越えた（場外エリアの）飛球をプレイングゾーン内に立ち（足が線上を踏んでいるを含む）捕球すれば、アウトである（インプレイ）。

- ⑤ 野手がプレイングゾーン内の飛球を追わえすぎて身体（片足または両足）がアウトラインを越えていても、捕えた場合はアウトでありボールインプレイとする。

→ 試合続行可能

- ⑥ 同様に野手がプレイングゾーン内の飛球を、ベンチに片足または両足を踏み込み捕球した場合も、アウトでありボールインプレイである。 → 試合続行可能

但し、捕球後にベンチに倒れこんだ（転倒の）場合で、無死または一死で走者ありのときはボールデッドとなり、走者に一個の進塁を与える。

→ 倒れこんだ場合は突発事故扱いでタイムを宣告

- ⑦ 外野手がフェンス際でフェアボールの飛球を捕えた後（捕球と認められる、またはアウトの宣告あり）、プレイングフィールドの外（場外）に倒れこんだ場合はボールデッドとなり、無死または一死の走者には一個の進塁を与える。

→ 場外エリアに倒れこんだ場合は突発事故扱いでタイムを宣告

- ⑧ 外野手がフェンス際でフェンスより高いフェアボールの飛球を捕えつつ（＝まだ捕球と認められない）連続性を持ってプレイングフィールドの外に転倒した場合は、ホームランとして処置をする。

- ⑨ ファールライン（ポール）際のフェア飛球が野手に触れて（身体・グラブ）進路が変わり、ファウル地域の外野フェンス（またはライン）を越えた時は、打者に二塁が与えられる（走者がいれば、P. 投球時の占有塁を基準に2個進塁）。

→ 公認規則6.09(h)

- ⑩ 明らかにフェア地域の外野フェンスを越えたであろうと審判員が判断している飛球を、野手がグラブ・帽子・着衣の一部を投げつけて、その進路を変えた（落下含む）場合は、本塁が与えられる（ホームラン）。 → 公認規則7.05(a)

(3) 公認野球規則との整合性について

当リーグの河川敷グラウンド3面は、本塁から外野フェンス（ライン）までの距離が250フィート（≒76.2M）以上あり、競技エリアの適用を満たしているものの、バックネットやベンチのベースライン（ファールライン）からの距離は短く制限されたものとなっている。

本資料（2）項は、DLグラウンドのプレーイングエリア内での合理的競技性と公認野球規則との整合性を調整しての取り決めとした。

↓ 次ページ 参考

公認野球規則（7.04-C、5.10-f）

7.04

次の場合、打者を除く各走者は、アウトにされるおそれなく一個の塁が与えられる。

(C) 野手が飛球を捕えた後、ベンチまたはスタンド内に倒れ込んだり、ロープを越えて観衆内に倒れ込んだ場合。

【原注】野手または捕手が飛球を捕えるために、ダッグアウトの中へ手を差し伸べたり、片足または両足を踏み込むことはさしつかえなく、捕球すれば、正規の捕球となってボールインプレイである。

野手または捕手が正規に捕球した後、スタンド、観衆、またはダッグアウトの中に倒れ込んだり、あるいはダッグアウトの中で捕球した後倒れた場合、ボールデッドとなり、走者は安全に一個の進塁が許される。

5.10

次の場合、球審は“タイム”を宣告しなければならない。

(f) 野手が飛球を捕えた後、ベンチ、またはスタンド内に倒れ込んだり、ロープを越えて観衆内に倒れこんだ場合。

* プレーイングゾーン内で捕球後、ベンチに踏み込んだり、アウトラインを越えた場合でもインプレイであるため、無死または一死の走者はタッチ・アップ可能となる。

——以上。

